

3年A組 保健体育科 単元設計・学習指導案

指導者 古澤 龍也

1 日時（場所） 令和6年2月16日（金） 13:50～14:40（体育館）

2 教科領域別研究テーマ

豊かなスポーツライフの実現に向けて、主体的に運動に取り組む生徒の育成

3 研究テーマ設定の理由

保健体育科では、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現していく資質や能力を育成することが求められている。つまり、保健体育科における Well-being を一言で表すとすれば、心も体も健康的な生活を送ることだと考える。そうあるために、いつでも、どこでも、誰とでも、自分の必要感に応じて運動を実践できる生徒を育てたい。

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するためには、生徒に運動との前向きな出会いをさせ、運動やスポーツの楽しさや喜びを実感させることが重要となる。保健体育学習では、技能の定着に向けて粘り強く努力する姿勢、仲間との豊かな関わり合いの中で他者と協働して活動できる力なども必要となる。日々の授業で培われたこれらの力が日常生活でも生かされれば、自分たちの力でよりよい社会、未来を拓くことができる人材が育つのではないかと考える。

4 単元設計（単元名：体育理論「文化としてのスポーツの意義」）

(1) 単元目標

- 文化としてのスポーツの意義について理解することができる。 「知識」
- 文化としてのスポーツの意義について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- 文化としてのスポーツの意義についての学習に自主的に取り組もうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元の評価規準

知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①現代生活におけるスポーツは生きがいのある豊かな人生を送るために必要な健やかな心身、豊かな交流や伸びやかな自己開発の機会を提供する重要な文化的意義を持っていることについて、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ②オリンピック・パラリンピック競技大会や国際的なスポーツ大会などは、世界中の人々にスポーツの持つ教育的な意義や倫理的な価値を伝えたり、人々の相互理解を深めたりすることで、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることについて、言ったり書き出したりしている。 ③スポーツは、民族や国、人種や性、障がいの有無、年齢や地域、風土といった違いを超えて人々を結び付ける文化的な働きがあることについて、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ④小学生とのスポーツ交流の体験から得たものと学習したことを結び付け、現代スポーツの価値等について理解したことを書き出している。	習得した知識を活用して、運動やスポーツとの多様な関わり方や楽しみ方についての自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて、思考し判断するとともに、自己の意見を他者に伝えている。	文化としてのスポーツの意義を理解することや、思考し判断したことを表現する活動などに自主的に取り組もうとしている。

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	・スポーツを行う意義について話し合うことで、スポーツの文化的意義について理解できるようにする。	知①		・スポーツは、文化的な生活を営み、よりよく生きていくために重要であることについて、言ったり書き出したりしている。 （観察、ワークシート）
2	・国際的なスポーツ大会を見て感じた、スポーツの「よさ」や「魅力」について話し合うことで、それらが国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解できるようにする。	知②		・国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることについて、言ったり書き出したりしている。 （観察、ワークシート）
3	・言葉の通じない国の中学生と仲良くなる方法を考える活動を通して、スポーツが様々な違いを超えて人々を結び付ける文化的な働きがあることを理解できるようにする。	知③		・スポーツは、民族や国、人種や性、障がいの違いなどを超えて人々を結び付けていることについて、挙げている。 （ホワイトボード）
体育分野				
	・球技（ネット型）バドミントン			
4	・パフォーマンス課題に取り組むことを通して、習得した知識を活用して「スポーツをつくる／はぐくむ」という関わり方に触れることができるようにする。	知 思 態	○	・パフォーマンス評価 （ワークシート）
5 本時 6	・交流会に向けて、グループごとにルールや方法について話し合い、実践してみようという活動を通して、仲間と意見交換してよりよいものを創ることができるようにする。	思 態	○	・習得した知識や既存の知識を活用して、運動やスポーツの楽しみ方についての課題を発見し、よりよい解決に向けて、思考し判断するとともに、自己の意見を他者に伝えている。 （観察） （支援）様々な視点に立ち、みんなが楽しむことができる工夫がないか考えるよう助言する。 ・文化としてのスポーツの意義を理解することや、思考し判断したことを表現する活動などに自主的に取り組もうとしている。 （ワークシート）
学活				
	・附小生とのスポーツ交流会			
7	・3年間の体育理論で学習したことを踏まえて小学生との交流を振り返る活動を通して、スポーツの価値やよさを再確認したり、これからどのように運動やスポーツと関わることが大切なのかについて考えたりできるようにする。	知④	○	・小学生とのスポーツ交流の体験から得たものと学習したことを結び付け、現代スポーツの価値等について理解したことを書き出している。 （ワークシート） （支援）具体的な例を用いて、今までに学習してきた体育理論の内容を想起させる。

(4) パフォーマンス課題

附属小の4年生から「中学生とスポーツを通して交流したい」と提案されました。年齢や性別、得意や不得意、経験の差を超えて、小学生と中学生の両方がスポーツの面白さ、魅力に触れることができるスポーツとその行い方を提案してください。

5 本単元と研究主題との関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒に行った事前アンケートでは、25.8%の生徒が「運動やスポーツがあまり好きではない」と否定的な回答をした。しかし、「運動をするのと見るのとではどちらが好きですか」という質問に対して、学級の41.9%の生徒が「するのを見るのも好き」、38.7%の生徒が「見る方が好き」、16.1%の生徒が「する方が好き」と回答し、自分なりの運動やスポーツとの関わり方を身に付けていることが分かった。自分なりの関わり方を見付けているところは評価できるものの、生活習慣病等の原因となる運動不足、肥満、体力減少に直接影響を与える、スポーツを「行う」という関わり方に肯定的な考えを持つ生徒をいかに増やしていくかが課題と言える。また、3.3%の生徒が「するのを見るのもきらい」と回答し、その理由は「運動やスポーツに興味がないから」であった。先述した保健体育科における Well-being を、全ての生徒に実現させるためには、運動やスポーツが持つ文化的意義（他者との豊かな交流、健やかな心身の育成、自己開発の機会）を実感させたり、スポーツが心身の両面において人生を豊かにするものだと実感させたりすることが必要である。

(2) 単元について

本単元は、生徒たちが普段何気なく行っている「スポーツ」が人々の生活や人生を豊かにするかけがえのない文化になっていることや、現代生活の様々な場面において重要な役割を果たしていることを学ぶことができる単元である。また、自分自身のスポーツとの関わり方や、スポーツを通して他者とどのように関わっていくべきかを考える機会となり、保健体育科の目標である「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」を高め、「明るく豊かな生活を営む態度」を育むことにもつながる。特に、本時で扱う「人々を結び付けるスポーツ」において、年齢や性別、経験や運動の得意・不得意などの様々な違いを超えて、誰とでもスポーツを楽しむことができれば、自他の Well-being を実現していくことにつながっていくと考える。

(3) 指導について

以下の二点について指導の工夫をすることで、生徒のエージェンシーを育成したり、生徒にエージェンシーを発揮させたりしたいと考える。

ア AAR サイクル（見通し・行動・振り返り）を生かした授業展開の工夫

指導計画の3時間目にあたる授業の中で、パフォーマンス課題を提示し、単元の終末には実際に小学4年生とスポーツ交流会を行うというゴールイメージを持たせる。そのことにより、並行して行う体育分野の領域において、「みんなが楽しめる、みんなで楽しめるスポーツ大会にするためには、どのような工夫や配慮が必要となるのか」について課題意識を持たせて授業に取り組ませたい。交流会に向けての「行動」にあたる本時の中でも、AAR サイクルを生かして授業を展開する。まず、先述のパフォーマンス課題に取り組むことで、個人として課題の解決に向けた考えをまとめる。次に、それをグループ内で共有し、グループとしての見通しを立てる。そして、本時で実践（行動）してみて、振り返りを行う。頭でイメージしたものと実際に体を動かして感じたものを擦り合わせ、メタ認知的知識をもとに、メタ認知的技能を発揮していく中で、よりよいものを創り出そうとする態度を育てたい。

イ スポーツを「つくる／はぐくむ」活動を取り入れた単元構想

第3期「スポーツ基本計画」では、国民がスポーツを「する」「みる」「支える」ことを真に実現できる社会を目指すために、スポーツを「つくる／はぐくむ」、スポーツで「あつまり、ともに、つながる」、スポーツに「誰もがアクセスできる」という新たな三つの視点が必要だと述べられている。その中でも、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し、最適な手法やルールを作り出す、スポーツを「つくる／はぐくむ」活動を取り入れることで、生徒たちが自他の必要感に応じて運動を実践できる力を養わせたい。その際、スポーツの面白さを全員が味わうための最適解を見いだせるように支援していきたい。

6 本時の指導（5／7時間）

(1) 主題 小学4年生と一緒に楽しむことができるスポーツを考えよう。

(2) ねらい

○習得した知識や既有的知識を活用して、運動やスポーツの楽しみ方についての課題を発見し、よりよい解決に向けて、思考し判断するとともに、自己の意見を他者に伝えている。

(3) 展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 本時の学習の流れと学習課題を確認する。 （一斉）	5	○本時の学習課題を確認しよう。	
小学4年生と一緒に楽しむことができるスポーツを考えよう			
2 グループごとに考えたアイデアを実践し、振り返る。 （グループ） ↓ （全体）	35 (20)	○前時に考えた工夫を確認しよう。【Anticipation】 ・今日はこの工夫を実践してみよう。 ○前時に考えた工夫を実際に行ってみよう。【Action】 ・どの案がいいだろうか。	○グループ内で考えたことを確認することで、今日の活動内容の見通しが持てるようにする。 ○活動の様子を見ながら声掛けすることで、生徒が工夫しようとしている内容が目的に合っているのか、新たな課題はどこにあるのかなどに気付けるように支援する。
	(5)	○実践した感想を班で共有しよう。【Reflection①】 ・上手くいったこととそうでないことがあったな。	○自分だけでなく、自分以外の視点にも立って活動を振り返ったり、他グループの発表を聞いたりすることで、目指す交流会の姿の実現に向けて、今後どんな行動が必要となるか考えられるようにする。
	(10)	○他の班の実践状況を共有しよう。【Reflection②】 ・こんな工夫があったんだな。	
3 本時の振り返りを踏まえて、次時の見通しを立てる。 （グループ） ↓ （一斉）	10	○本時の活動を振り返ってみよう。 ・どんな工夫がよかったのだろう。 ・○○については改善が必要だな。 ・次の時間ではどんなことを調整してみようか。 【Anticipation】	○AARサイクルシートを用いて本時の活動について振り返ることで、自分たちが目指す姿にどれだけ近づけたのか確認したり、よりよくするためにはどうしたらよいかについて考えたりできるようにする。 ◎習得した知識や既有的知識を活用して、運動やスポーツの楽しみ方についての課題を発見し、よりよい解決に向けて、思考し判断するとともに、自己の意見を他者に伝えている。 （観察）

7 研究の視点

○スポーツを「つくる／はぐくむ」という活動は、生徒がエージェンシーを発揮する場面としてふさわしい活動であったか。